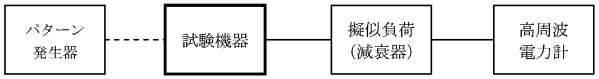
ととしているが、一回に掃引する帯域幅内で最も厳しい許容値を判定基準として、この値を超えた場合に再測定する場合又は技術基準が異なる帯域ごとに判定基準が個々に設定できるスペクトル分析器を用いる場合は、掃引帯域幅を広くすることができる。

注１　ＰＨＳ帯域内で「搬送波±996kHz の範囲を除く」の記述は、占有周波数帯幅 288kHz を超えるものにあっては、「搬送波±1,296kHz の範囲を除く」とする。

注２　指定した周波数範囲内の電力測定機能を有しないスペクトル分析器の場合は、隣接チャネル漏えい電力と同様の方法で測定する。なお、中心周波数がＰＨＳ帯域内で搬送波±1.5MHz 以内の場合は、搬送波±1.5MHz の範囲を中心周波数とする。ＰＨＳ帯域外で、搬送波±2.75MHz 以内の場合は、搬送波±2.75MHz の範囲を中心周波数とする。

七　空中線電力の偏差

１　測定系統図



２　測定器の条件

⑴　高周波電力計は、熱電対、サーミスタ等による熱電変換型を基本とする。

⑵　減衰器の減衰量は、高周波電力計に最適動作入力レベルを与える値とする。

３　試験機器の状態

試験周波数に設定し、強制送信制御の動作モードで標準符号化試験信号により変調して送信する。

４　測定操作手順

⑴　高周波電力計の零点調整を行う。

⑵　送信する。

⑶　繰り返しバースト波の電力を十分長い時間にわたり高周波電力計で測定する。

⑷　複数の変調方式及び送信速度を有するものは、それぞれの変調方式及び送信速度ごとに測定する。

⑸　複数のスロットを連結するものは、⑷の各測定において連結したスロット数ごとに測定する。

⑹　通話チャネルと、制御チャネルで空中線電力の異なるものは、それぞれについて測定する。

⑺　１チャネルで二の通信を同時に行うことができる（16 スロットに１回送信する。）機能を有する無線設備の場合は、１チャネルで一の通信を行う（８スロットに１回送信する。）状態及び１チャネルで二の通信を同時に行う状態においても測定する。

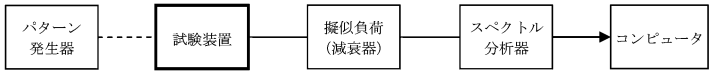
５　試験結果の記載方法

⑴　空中線電力の絶対値を mW 単位で、工事設計書に記載されている空中線電力に対する偏差を％単位で＋又は－の符号を付けて記載する。

⑵　複数スロットを送信している場合は、測定値を送信スロット数で除すものとする。

八　隣接チャネル漏えい電力

１　測定系統図



２　測定器の設定等

⑴　スペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	４に示す周波数
掃引周波数幅	搬送波電力測定時は 300kHz（占有周波数帯幅が 288kHz を超える場合は 900kHz）、隣接チャネル漏えい電力測定時は 192kHz
分解能帯域幅	１kHz
ビデオ帯域幅	３kHz
Ｙ軸スケール	10dB／Div
入力レベル	ミキサの直線領域の最大付近
データ点数	400 点以上
掃引時間	１サンプル当たり１バーストが入ること
掃引モード	単掃引
検波モード	ポジティブピーク

⑵　スペクトル分析器を用いて得られた測定値は、外部又は内部のコンピュータによって処理する。

３　試験機器の状態

⑴　試験周波数に設定し、強制送信制御の動作モードで変調信号の送信速度（bps）と同じ送信速度の標準符号化試験信号により変調して送信する。

⑵　複数の変調方式及び送信速度を有するものは、それぞれの変調方式と送信速度ごとに測定する。

⑶　複数のスロットを連結するものは、１スロット送信に固定する。

４　測定操作手順

⑴　占有周波数帯幅が 288kHz 以下の場合

ア　搬送波電力（P_C）の測定

(ｱ)　搬送波周波数を中心周波数として掃引する。

(ｲ)　全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

(ｳ)　全データの dB 値を電力次元の真数に変換する。

(ｴ)　全データの電力総和を算出し、P_Cとする。

イ　上側隣接チャネル漏えい電力（P_U）の測定

(ｱ)　搬送波周波数＋600kHz を中心周波数として掃引する。

(ｲ)　全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

(ｳ)　データ点ごとに電力次元の真数に変換し、このデータ値の総和を算出し、これをP_Uとする。

(ｴ)　搬送波周波数＋900kHz を中心周波数として掃引し、終了後(ｲ)及び(ｳ)の手順を繰り返す。

ウ　下側隣接チャネル漏えい電力（P_L）の測定

(ｱ)　搬送波周波数－600kHz を中心周波数として掃引する。

(ｲ)　全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

(ｳ)　データ点ごとに電力次元の真数に変換し、このデータ値の総和を算出して、これをP_Lとする。

(ｴ)　搬送波周波数－900kHz を中心周波数として掃引し、終了後(ｲ)と(ｳ)の手順を繰り返す。

⑵　占有周波数帯幅が 288kHz を超える場合

⑴の「600kHz」を「900kHz」に、「900kHz」を「1,200kHz」に読み替えてP_C、P_L及びP_Uを測定する。

５　試験結果の記載方法

七の項で測定した空中線電力の測定値に９dB を加えた値から次の値を減じて nW 単位で記載す